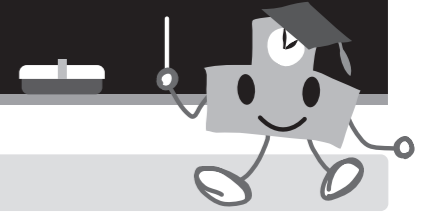


中学校の事例 厚別区 青葉中学校

# 「ピカッとあつべつクリーン月間」のごみ拾いをおして、地球を守る心を育てる。

開校記念日を前に学校周辺をきれいに。清掃活動をおし、身のまわりの環境を考えるきっかけに。



## 内容 希望者を募り 自発的に活動

厚別区では、毎年10月に「ピカッとあつべつクリーン月間」と題し、ごみ拾いなどの環境活動を提唱。本校もこの運動に参加しており、校舎周辺や隣接する歩道、サイクリングロードなどの清掃を行っている。

平成22年度の清掃活動は、10月29日に実施。以前は特別支援学級や部活動の生徒、また委員会活動としてそれぞれで行っていたが、学校全体で一体となって取組もうと、環境委員、ボランティアクラブを中心に、全校生徒に掲示などで呼びかけ、集まった希望者で行うこととなった。「11月1日の開校記念日を前に校舎周辺をきれいにしよう」という呼びかけに賛同し、

全校生徒の38%にあたる87名が参加。

まだ外も温かく、紅葉もきれいな放課後に大勢で楽しみながらごみ拾いを行うことができた。地域の方々からも「頑張っているね」など声をかけていただき、大変励みになった。



学校前のある遊歩道の清掃

## 今後 規模を拡大し 活動を継続

授業の中で「やらされる」のではなく、参加者を募り自発的に「やる」ことで、より達成感や充実感を得ることができ、身のまわりの環境のことを考えるきっかけとなった。中学校は部活動、委員会活動などで忙しいが、教科の中での知識に加え、自発的な意識を育むためにも呼びかけの方法を工夫しながら、次年度以降もさらに回数や参加人数を増やし、継続して行っていきたいと考えている。



清掃参加者の記念撮影

広げよう つなげよう 環境学習の輪

実施校から メッセージ

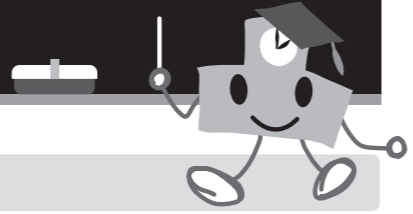
各教科の中で取り上げられる環境問題と、自分たちが行っている活動がどのように結び付いているのか理解させていくことが必要だと思います。一つの題材でも、仕組み・技術などいろいろな教科に関わってくるので、より深く理解するためにもっと「横断的学習」ができればいいのではないのでしょうか。

活動を続けるにあたり、放課後は部活動や委員会活動がある生徒もいるため、どのように時間の確保をするのか、火ばさみなど道具を買うための予算の確保の問題も出てきます。また生徒たちだけではなく、地域の方たちと一緒に取組んでいく方法など、工夫をかさねていきたいと考えています。

中学校の事例 北区 篠路西中学校

# 生徒会の呼びかけで公園の清掃活動。夏休み前の恒例ボランティア。

ボランティア活動として、地域の公園をきれいに。落ちていくごみを実際に目にする中で、環境意識と責任感が芽生えている。



## 内容 2つの公園で清掃活動

清掃活動は、ボランティアの一環として、生徒会からの呼びかけで始まった。野球場もある地域の大きな公園の清掃活動に、生徒が参加(部活単位で参加する生徒も)。実施時期は中体連やテスト期間などが終了し、学校行事がひと段落する夏休みの少し前の時期を選んでいる。平成22年度は7月17日に実施され、約60人が参加した。清掃の際に使用のごみ袋は生徒会予算から、火ばさみは学校にある備品を使用。また、軍手は生徒が当日家庭から持参し、費用をあまりかけずに行うことができた。

この活動のようすは、「しのろ福祉のつどい」の中で発表された。これは、生徒会によって環境に関する活動内容を発表するもので、「中学校生徒の福祉ボランティア活動」と題し、本校のほかにも2校がボランティアやリサイクルについての発表を行った。



清掃活動のようす

## 効果 見ることから生まれる意識

自分たちが捨てていなくても、実際に落ちていくごみを見ることにより、「きれいにしよう」「きれいにしなくてはならない」という意識が生まれているようだ。

## 今後 部活動や行事 検定で忙しい中でも 取組を

地域の方との交流のためにも町内会や幼稚園と一緒にいきたいが、スケジュール組みが難しく、現在のところ合同での活動には至っていない。今後、スケジュールを調整して、合同で行ってほしい。

中学生は部活動や行事、検定などもあり忙しいが、生徒たちが集まれる時期を調整して行えば、長続きさせることは可能だと思われる。また、効果の出やすい体験学習も、事前に机上で知識をしっかりと得てから体験をさせることで、より効果が表れると考えられる。

広げよう つなげよう 環境学習の輪

実施校から メッセージ

近年、環境問題に対して様々な意見や考え方があることで、大人でさえも「安易に子供たちに教えられない」と感じる場合があります。どれを正しいと判断し、優先させるべきか、振り回されてしまう可能性も時にはありますが、自分の力で調べ、多面的な情報を得ながら、「どちらがよい」「どれが正しいと思う」といった判断をできるようにするのが望ましいと考えています。